

ふるさとのお話

竜になった 吉野長者の娘



福泉寺の山門

竜は想像上の動物として千年以上も昔にあらわれました。いろいろな魔力を使います。しかし、恐ろしい妖獣ようじゅうというよりは、水の神としてうやまつたといわれています。今回は竜になった娘の話の紹介を。

むかし、天間の福泉寺の近くに吉野長者ちやうじやという大金持が住んでいました。なんの不自由のないくらしでしたが、子宝こたからに恵まれませんでした。そこで夫婦は氏神うじがみに一心に祈りました。その真心が通じたのか、女の子が生まれ夫婦はたいへん喜んで「たまき」という名をつけて、かわいがって育てました。

17、8の娘ざかりに成長すると、村でも評判の美しい娘になりました。

娘は長者ヶ池の主

ある日、娘は死ぬまでに一度でよいから、白糸の滝の近くにある池をみたいと両親にお願いしました。両親はかわいい娘の願いに、さっそくカゴに乗せて、大勢ともの供をつけて長

者ヶ池（田貫湖）へやりました。

池につくと、娘はしばらく池をジッとみつめていました。すると、にわかあなうんに暗雲がたれこめ、稲妻いなづまが走り雷がおこると娘はみるみるうちに竜となり池の中へとびこんでしまいました。人々があっけにとられていると、間もなく池の中央にあらわれ「私は吉野の娘として生まれましたが実は、この長者ヶ池ぬしの主わけです。訳あってどうしても池に帰らなければならなくなったのです。どうか、私を大事に育ててくれた両親にくれぐれもよろしくお伝えください」というと、そのまま池の中へ消えてしまいました。

人々は急いで家に帰り長者にそのことを話しました。悲しんだ長者が娘の寝床へいってみると金色の鱗が三、四枚おちていたそうです。

故紙は、次のように生まれかわります。

- 1.ダンボールは、もう一度ダンボールに
- 2.新聞、雑誌は、主にボール紙に
- 3.雑誌は、漫画本や雑誌の用紙に
- 4.新聞の折込広告は、トイレットペーパーに

読み終った新聞、雑誌、週刊誌、折込広告、不用になったダンボール等は、ごみとして捨てないで、資源として再生させるためには、地域で相談して集団回収をすすめることです。

——進めよう ごみの減量・資源化——



市立博物館 展示物 紹介 ★ 古代人のいのり

富士山信仰と浅間神社せんげんじんじや



今宮浅間神社

市内の今宮浅間神社は、丸火溶岩まるびようがんの最南端にあります。

これは、富士山が噴火をくり返して人々をおそれさせていたので、山に宿る神の心を鎮めようとした信仰のあらわれです。やがて水の徳を持った神をまつり、噴火のわざわいを防ごうとする信仰がうまれ、コノハナサクヤヒメさいじんを祭神とするようになりました。

浅間神社せんすいちが湧水池の近くには多いのはこのためです。富知六所浅間神社などはそれです。

なお、山岳信仰の伝説上の人物である「役の小角」の系譜下にある多くの修験者しゆげんじや（山伏）は、富士山信仰でたいへん活躍しました。



富知六所浅間神社